

---

# 黙秘剤

よわむし

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黙秘剤

### 【Z-1-ア】

Z98540

### 【作者名】

よわむし

### 【あらすじ】

やくつと読めるショートショートストーリーやってます。

「」はある国の諜報部。

そこに突然、製薬会社から薬を売りにきた男がいた。

拷問や自白剤による情報の流出を防ぐため、  
自白剤の効果を防ぎ、どんな拷問にも耐えることのできる  
新薬が完成したので持ってきたのだそうだ。

「いかがでしょう。私どもは『黙秘剤』と名付けました。」

諜報部の人間は、にわかには信じられないという顔で、  
その製薬会社の男を出迎えた。

「」ちらがそのサンプルになりますので、  
ぜひ一度お試しください。」

男はこの薬が売れる自信があった。  
自分たちでテストしてみたところ、  
薬が効いている一定の時間、  
どんな自白剤にも、どんな拷問にも、  
耐えることができたという結果がでている。  
あとは、実際に効果の程を試してもらうだけだった。

後日、諜報部からその製薬会社に電話があった。  
もちろん、その薬の注文であった。

急いで男は諜報部に頼まれた量の薬を届けに行つた。

「どうです？ 効き目はバツチリでしたでしょ」

自信満々に薬を渡したところ、思いも寄らぬ返事が返ってきた。  
あの薬が情報流出を防ぐのに、全く役に立たなかつたのだそつだ。

つい先日、敵に捕まつてしまつた諜報部員が、  
実際に恐ろしい拷問にあつたそうなのだが、  
そのとき、例の黙秘剤を持つていて飲んだらしい。

確かに効果は絶大で、どんな拷問も全く苦にならず、  
自白剤を使わても決して口を割ることはなかつたのだが、  
相手が拷問に疲れてしまい、手を休めたとたんに、  
薬の副作用で、拷問されていいことが、  
逆にとてつもなく苦しく感じるようになり  
拷問されることを望んでしまつようになったのだ。

結果、その諜報部員は、

「何でも言いますから、もつと拷問をしてくださいー。」  
と言つて、あつさりと情報を漏らしてしまつた。

情報を正直に言つたために、その諜報部員は命を落としきり、  
諜報部に帰つて、そのことを伝えたらしい。

そういえば、確かに拷問をしていない時のテストをしていなかつた。  
男は役に立たない薬を作つてしまつたことを悔やみ、  
また恥ずかしく思い、諜報部にお詫びを言つた。  
だが、ふと素朴な疑問が頭に浮かんだ。

「では、なぜ今回また、この黙秘剤を注文されたのですか？」

「血口蠶て海老と組つて。」

「ああ、なるほど。」

(後書き)

2本目の投稿となります。

ご意見、ご感想がありましたら、  
どんなことでも遠慮なくどうぞ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9854o/>

---

黙秘剤

2010年11月18日07時43分発行